

モモにおけるチュウゴクアミガサハゴロモの対策について

山梨県農政部農業技術課

中国原産の外来害虫チュウゴクアミガサハゴロモが近年、県内の果樹園で確認されています。今のところ果実の品質低下や収量の減少などの深刻な被害はありませんが、結果枝に産卵し、枝折れの原因となるおそれがあるため、発生量を増やさない対策の徹底をお願いします

【生態・被害】

- 枝内に産み付けられた卵の状態越冬
- 果樹、庭木、野菜などさまざまな植物に寄生・産卵
- 細く柔らかい枝を傷つけて産卵するため、枝先が**枯死**したり、産卵された部位がもろくなることで**枝折れ**が懸念



成虫



幼虫



産卵痕

【発生量を増やさないポイント】

○産卵された枝の剪除

次世代の発生密度低減のために園地の観察をきめ細かく行い、チュウゴクアミガサハゴロモにより産卵された枝を発見した際は、産卵された枝を剪除してください。剪定枝は焼却するなど適切に処分してください

※防除暦に沿った慣行防除を実施した園地では本種の発生が抑制されている事例があります

モモ害虫防除体系と本虫の発生時期

シンクイムシ、ハモグリガ防除

【春～夏期】
モスピラン顆粒水溶剤
スタークル顆粒水溶剤
アディオン乳剤 他

第1世代

越冬世代

カイガラムシ防除

【秋期】
ダイアジノン
水和剤34

年間の生態

カイガラムシ防除

【冬期】
マシン油乳剤

【秋～冬期】
剪定作業による
卵の除去

産卵痕

卵



⇒白い綿のようなもの下に卵

卵で越冬

※白い綿をこすり落とすだけでは、枝の内部の卵は除去できません

※県内では年2世代が発生と推測

令和8年3月作成